

しんかんきょう

公益社団法人神奈川県環境保全協議会

2016. 8
第 137 号



『アオバト』 Photo in Oiso Town Kanagawa Prefecture by Masao Maida

- 8 事業所が会長表彰を受賞！
 - 新たな環境基本計画の策定などの行政情報！
 - 特集「リサイクル事情（最終回）～木材資源のリサイクルとFIT制度～」
 - 新技術紹介「漏油事故対策研修会」の実施内容
- ・・・など満載！

会報 しんかんきょう も く じ

平成28年 8 月 No.137

1	常務理事就任あいさつ	1
	公益社団法人神奈川県環境保全協議会常務理事 塩谷 映雄	
2	第4回定時総会・記念講演の開催報告	2
	協議会事務局	
3	会員事業所の環境保全各種表彰の受賞報告	4
	協議会事務局	
4	法令・行政動向	
(1)	平成28年度環境農政局における予算及び主要事業について	6
	神奈川県環境農政局総務室	
(2)	新たな環境基本計画の策定について	8
	神奈川県環境農政局環境部環境計画課	
(3)	水質事故を防ぐための日常の取組みについて	10
	神奈川県環境農政局環境部大気水質課	
(4)	エネルギー自立型住宅・ビル・街の実現に向けて	12
	神奈川県産業労働局産業部エネルギー課	
5	特集「リサイクル事情あれこれ」(最終回)	14
	—— 木材資源のリサイクルとF I T制度 ——	
	萬世リサイクルシステムズ株式会社	
6	新技術紹介	
③④	漏油事故の対策研修会について考える	16
	谷口商会株式会社	
7	会員事業所訪問	
②⑥	ネポン株式会社 厚木事業所	18
	協議会事務局 山崎 美紀	
8	協議会の活動状況	19
	協議会事務局	
9	わがお国自慢・事務局だより	20

常務理事就任に当たって



公益社団法人 神奈川県環境保全協議会
常務理事兼事務局長 **塩谷 映雄**

私は、6月1日から、公益社団法人 神奈川県環境保全協議会の常務理事兼事務局長に着任しています塩谷映雄（名前の読みは「てるお」です。）と申します。県の環境行政に携わった経験をご縁に、このたび、協議会事業の推進役という責任ある立場を担わせていただくことになりました。何分にも不慣れなため、皆様のご指導・ご助言をいただきながら、仕事を進めたいと考えています。よろしくお願いいたします。

このたび、こうしてごあいさつの機会をいただき感謝いたします。私の職務経験の中での協議会との関わりや協議会の役割などについて、私の個人的な意見ではありますが、述べさせていただきますことにします。

私は、昭和56年4月に神奈川県職員の技術吏員として採用となり、その後、35年間、公衆衛生、公害、工業保安分野の様々な部署で勤務し、今年の3月に県の環境科学センターという試験研究機関を最後に定年退職となりました。

この間、公害関係の仕事に就いている時には、県の施策推進に協議会から多大なご支援をいただきました。今から10年ほど前の話ですが、大気水質課に在籍していた当時、化学物質対策の一環として「リスクコミュニケーションの普及・定着」を図るという仕事を進めるため、会員事業所さんから場の提供を受け、近隣自治会から参加を募り、「モデル事業としてのリスクコミュニケーション」を実施させていただきました。当時、リスクコミュニケーションという言葉は一般的でなく、実践している事業所もほとんどないという状況の中、理事会の場での趣旨説明を行う機会をいただき、協力していただけることになりました。このモデル事業を4～5年続けたことで、大きな周知効果が得られたと考えています。会員事業所の皆様のご協力と当時の事務局には大変お世話になりました。

協議会には、こうした取組みのほか、県からの重要なお知らせやイベント開催案内等の県の取組の周知にも協力していただくなど、環境行政の推進に大きく貢献していただいたと私は考えています。

このたび、退職後に、この協議会の事務局長として、また、役員として仕事をさせていただく機会を得たことにとても感謝しています。一方で、県の環境行政を円滑に進める上で無くてはならない協議会の業務運営をしっかりと担っていく責任を痛感しています。

これからは、立場をかえて、協議会の利益を最優先に仕事を進めていくこと・・・こうした認識をしっかりと持って仕事を進めていきたいと考えています。今後も皆様のお力をお借りする場面が多々あるかとは思いますが、第11代目の協議会事務局長として、これまで長い歴史とその中で培われた伝統を守りつつ、これまでの行政経験を活かして、効率的・効果的な業務展開等の提案も行いながら、山崎事務局員とも連携を図って仕事を進めていきたいと考えています。どうか、今後も皆様からのご指導、ご声援をよろしくお願いいたします。

第4回定時総会・記念講演の開催報告

【第1部 総会】

公益社団法人移行後第4回目となる定時総会は、昨年と同じ会場の「県民共済みらいホール」において、正会員総数292会員中、60会員の出席、委任状提出158会員により開催されました。

進行役の金子理事（三菱電機株式会社鎌倉製作所）の宣言により開会、はじめに、高橋会長（日産自動車㈱追浜工場）のあいさつが行われ、その後、来賓の皆様を代表して、神奈川県環境農政局の山崎環境部長様からご祝辞をいただきました。

次に、高杉理事（アンリツ株式会社）が議長に選出され、①平成27年度事業報告、②平成27年度収支決算報告・会計監査報告及び③任期満了に伴う役員改選の3議案の審議が行われ、全て承認されました。

その後、報告事項として準備した「平成28年度事業計画」及び「平成28年度収支予算」もご了解をいただき、金武副会長（富士フィルム株式会社神奈川工場）のあいさつで、総会は閉会となりました。



金子理事



高橋会長



高杉理事



山崎環境部長



金武副会長

【第2部 環境保全表彰】

総会終了後、当協議会会長表彰の荣誉に輝いた8事業所・個人の授賞式を執り行いました（4ページに掲載してあります。）。

【第3部 記念講演】

その後の第3部では、昨年と同様に一般参加の方々も受け入れた中で、一般財団法人持続性推進機構の安井至理事長から、「環境トップ企業への道—国際的感覚と日本流—」と題したご講演をいただきました。気象変動枠組み条約COP21で合意されたパリ協定の内容などの詳しいご説明をいただきました。



安井至理事長

【第4部 レセプション】

第4部のレセプションでは、県民共済みらいホール6階に場所を移して、記念講演講師の安井理事長、来賓の環境科学センターの小林所長様、また、環境保全表彰を受賞された8団体・個人の皆様からごあいさつをいただき、和やかな懇談の場として開催することができました。中締めのごあいさつが川上副会長（株式会社さんこうどう）から行われ、有意義な宴のひと時は、これにて閉会となりました。



川上副会長

（写真提供）

荻久保 前理事（トピー工業㈱綾瀬製造所）

宮尾 環境保全アドバイザー

会員事業所の環境保全各種表彰の受賞報告

協議会事務局

本年度も多く会員事業所の取組みが評価され、当協議会会長や県から表彰されました。受賞の皆様にお祝い申し上げますとともに、さらなる事業の発展を祈念いたします。

◇ 公益社団法人神奈川県環境保全協議会環境保全表彰（会長表彰） ◇

当協議会の会員の中から、環境保全の進展に努め、その実績が優れていると認められる個人、事業者を会長が表彰するもので、昭和54年から毎年実施しています。平成28年度は8事業所が選ばれ、5月27日に開催された第4回定時総会において表彰されました（功績内容等は前号（136号）を参照願います。）。



前列中央の高橋会長を挟んで、左隣は山崎環境農政局環境部長、その隣は①日産自動車株式会社座間事業所 松浦氏
高橋会長の右隣は②株式会社日立アーバンインベストメント 山下氏、その隣は③株式会社オオスミ 原氏
後列左から④株式会社アパールデータ 菊地氏、⑤株式会社アマダホールディングス 今井氏
⑥三菱樹脂株式会社平塚工場 鈴木氏、⑦ナス・産業株式会社足柄工場 神藤氏
⑧富士ゼロックス株式会社竹松事業所 岡田氏

県産材の表彰状を贈呈

県産ヒノキを使用し、レーザーで文字を焼き付けたもので、木材の材質がそのまま生かされ、ヒノキ特有の香りが特徴です。

足柄上郡大井町『堀内ウッドクラフト』製

<http://www.horiuchiwoodcraft.com/>



◇ 平成28年度神奈川県地域県政総合センター所長表彰 ◇

この表彰は、大気・水・土壌環境の保全、環境整備等の進展に努め、その業績が広く県民の模範となる個人や事業所を神奈川県の各地域県政総合センター所長が表彰するものです。

今年度は、横須賀三浦地域、湘南地域、県西地域の3事業所が受賞されました（写真提供は各地域県政総合センター）。

【横須賀三浦地域県政総合センター所長表彰】 平成28年6月2日（木）

事業所名：菱栄テクニカ株式会社

（鎌倉市上町屋325番地）

表彰区分：廃棄物の発生抑制・再利用・再利用促進

【功績概要】

建設系廃棄物を種類別に小分けすることで分別を促進するとともに廃建材の容積及び保管スペースの削減を進めるなど、確実な分別を行うことでリサイクルを推進し、また、全従業員に対して、ごみの分別などの意識向上などの環境教育も行っている実績などが評価されたものです。



【湘南地域県政総合センター所長表彰】 平成28年6月14日（火）

事業所名：株式会社荏原製作所 藤沢事業所

（藤沢市本藤沢4丁目2番1号）

表彰区分：大気・水・土壌環境保全

【功績概要】

2000年3月のダイオキシン流出事故を教訓とした環境・安全活動に取り組む活動（323サークル活動）に長年（2015年度で14回目）取り組み、また、ジクロロメタン含有洗浄剤の廃止などの活動による環境負荷低減のための取り組みなどが評価されたものです。



【県西地域県政総合センター所長表彰】 平成28年6月30日（木）

事業所名：大東力カオ株式会社 中井工場

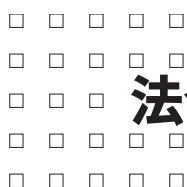
（足柄上郡中井町井ノ口2753）

表彰区分：大気・水・土壌環境保全

【功績概要】

2014年にエコアクション21認証登録して、二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質の購入量の削減などに取り組んでいること、また、近隣自治会との間で臭気モニター制度導入など、地域環境への配慮も積極的に行っていることなどが評価されたものです。





法令・行政の動向

平成28年度 環境農政局における 予算及び主要事業について

神奈川県環境農政局総務室

神奈川県の平成28年度当初予算は、「かながわグランドデザイン第2期実施計画（平成27年7月策定）に掲げる施策を着実に、かつ、スピーディーに実施するための予算として、また、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、人を引きつける神奈川づくりを加速させるほか、未病を治すことによる健康長寿の取り組みなどを強力に推進し、神奈川から経済のエンジンを回す「神奈川モデル創造発信予算～いざ！ネクストステージへ～」として編成したところです。

環境農政局の当初予算に関しては、厳しい財政事情を踏まえ、既存事業をゼロベースから見直すとともに、国庫や民間資金を積極的に導入するなどして、限られた財源を最大限に活用しながら、より優先度の高い事業へ財源を重点的に配分し、新たな課題にも積極的に対応し、環境の保全、農林水産業の振興に向けた取り組みを進めていくこととしております。

環境関連の予算につきましては、一般会計環境費の予算規模は110億6,000余万円（対前年予算比78.6%）であり、県全体の一般会計総額2兆137億円に対し0.5%の構成比となっています。

以下、環境関連の施策分野ごとに、新規事業を中心に主な事業を紹介します。

1 地球温暖化対策の推進

- 地球温暖化対策普及推進費 1,001千円

ライフスタイルの転換を促すため、マイエコ10宣言の普及を図るとともに、地球温暖化に係る情報発信を行う。

- 環境学習推進事業費 6,404千円

環境教育を支援するため、環境問題についての知識や経験を有する企業やNPO等の専門家を学校に派遣するほか、地域で活動する地球温暖化防止活動推進員や環境団体の支援を行う。

- （一部新）○ 中小規模事業者省エネルギーサポート事業費 19,600千円

中小規模事業者の省エネルギー対策や再生可能エネルギー等の導入を促進するため、県内の中小規模事業所及び中小テナントビルに対し専門家を派遣し、省エネルギー診断を実施するほか、省エネルギー相談会を開催する。

- （新）○ 省エネルギー対策フォローアップ相談体制構築事業費 10,000千円

省エネルギー診断を受診した中小規模事業所等を対象に、診断時に提案した対策の実行を支援するため、県が経営専門家等と連携して「省エネルギー対策フォローアップ相談体制」を構築し、専門家を派遣する等、きめ細かな支援を行う。

- （新）○ 家庭向け省エネルギー行動促進事業費 3,000千円

温室効果ガス排出量が増加している家庭部門のCO₂排出量を削減するため、県民の省エネルギーの意識を高め具体的な行動を促すよう、家電販売店・メーカーと連携した高効率家

電買替キャンペーンを実施する。

- ⑧○ 地球温暖化適応策調査研究費 6,700千円

気候変動に伴う環境の変化に対応し、本県の農業や漁業の経営に与える影響を最小限に抑えるための適応策について調査研究し、新たな展開に必要な技術の開発を行う。

2 循環型社会づくり

- 海岸漂着物等対策事業費 112,670千円

関係13市町が（公財）かながわ海岸美化財団に支出する海岸清掃事業費に対して補助するとともに、海岸美化に関する広報や漁業操業の妨げとなる海底ごみ等の回収、処理を行う。

- 産業廃棄物最終処分場費 1,050,031千円

本県の産業廃棄物の適正処理を推進するため、安全性のモデルとして設置された「かながわ環境整備センター」の運営を行う。

- ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理推進費 48,077千円

PCB廃棄物の処理に係る県内中小企業の処理費用の軽減を図るため、負担金を拠出するとともに、民間事業者に対するアンケート調査により、PCB廃棄物等の保管状況を把握する。

3 生活環境の保全

- 大気汚染監視用機器更新費 34,624千円

大気汚染濃度の県民への情報提供を確実にを行うため、PM2.5を含む大気汚染監視用機器を計画的に整備する。

- ORVR車普及啓発事業費 2,344千円

PM2.5や光化学オキシダントの原因物質の一つであるガソリンベーパーの削減に向け、ORVR車の早期義務付けの必要性について、映像を用いた電車内広告等により情報発信を行う。

- 水質常時監視費 39,967千円

水質汚濁防止法に基づき、公共用水域及び地下水の常時監視（モニタリング）を行う。

4 自然環境の保全・再生と活用

- 水源の森林づくり事業費 3,045,335千円

水源かん養など森林の持つ公益的機能の向上を図り、良質な水を安定的に確保するため、水源の森林エリア内の私有林の公的管理・支援を推進し、森林の適切な整備を行う。

- 古都及び緑地保全事業費 293,641千円

鎌倉などの古都における歴史的風土を保存するとともに都市近郊の緑地を保全し、良好な都市環境の形成を図るため、緑地の買入れ及び保全のための施設整備工事等を実施する。

- 鳥獣被害対策事業費補助 119,011千円

野生鳥獣による農林業被害及び生活被害を軽減するため、市町村等が行う捕獲等の取組みに対し助成する。（市町村補助117,834千円は市町村事業推進交付金の対象事業）

- ⑧○ 指定管理鳥獣捕獲等事業費 4,000千円

近年、ニホンジカの定着や生息密度の上昇が見られる箱根山地において、今後のニホンジカの捕獲強化に向けた検討を行うため、試験的な捕獲を実施する。

- ⑧○ 生物多様性保全基盤整備事業推進費 8,731千円

平成27年度末に策定した「かながわ生物多様性計画」の着実な推進を図るため、生態系の保全に向けた取組みを行うとともに、県民や事業者などが生物多様性を理解し、生物多様性に配慮した行動や保全のための行動をとることを促進する取組みを行う。

新たな環境基本計画の策定について

神奈川県環境農政局環境部環境計画課

神奈川県では、環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境基本計画を定めています。

この計画は平成9年3月に策定したのですが、計画の最終年度を迎え、新たに取り組むべき課題も生じていることから、昨年度10年ぶりに新たな計画を策定しましたので、その内容についてお知らせします。

1 神奈川県環境基本計画とは

県における環境施策を推進する上での基本的な計画で、環境の保全と創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、神奈川県環境基本条例に基づき、長期的な目標や施策の方向等を定めるものです。

計画の詳しい内容は、「神奈川県環境基本計画一次世代につなぐ、いのち輝く環境づくり」(<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f1023/>)でご覧いただけます。

2 「神奈川県環境基本計画」の概要

(1) 計画期間：2016（平成28）～2025（平成37）年度の10年間

(2) 基本目標：「次世代につなぐ、いのち輝く環境づくり」

便利で快適な生活を送ることができ、身近に豊かな自然を感じられ、きれいな空気や水を得ることができる良好な環境に恵まれている神奈川県

環境は、そこに生きるすべての“いのち”の基盤です。そして、現在の“いのち”は未来への“いのち”とつながっています。

良好な環境は、県民が生きる喜びを実感し、生まれてよかった、長生きしてよかったと思える“いのち輝く環境”。県では、この環境を守りながら、よりよくして将来の世代へ渡すことに取り組んでいきます。

(3) 施策について

新しい環境基本計画は、「持続可能な社会の形成」と「豊かな地域環境の形成」という2つの柱を基に、神奈川の「チカラ」と協働・連携して施策を進めます。

持続可能な社会の形成

将来の世代が利益を損なうことのない、環境へのダメージが少ない社会をめざします。具体的には、地球温暖化対策を分散型エネルギーシステムの構築と一体的に進めるとともに、資源の循環的な利用を推進します。

○地球温暖化への対応

- ・地域からの地球温暖化対策の推進
- ・再生可能エネルギーの等分散型電源の導入促進

○資源循環の推進

- ・資源の循環的利用の推進
- ・適正処理の推進



ゴミの分別リサイクル

豊かな地域環境の形成

県民が暮らしやすい自然豊かな地域環境をめざすため、里地里山の保全活動に取り組みます。また、生物多様性に配慮した自然環境の保全、すこやかな暮らしのための空気や水などの生活環境を保全する取組を推進します。

○自然環境の保全

- ・生物多様性の保全
- ・水源環境の保全・再生の推進

○生活環境の保全

- ・大気環境保全対策の推進
- ・水環境保全対策の推進
- ・化学物質対策の推進
- ・環境に配慮したまちづくり
- ・環境に配慮した農林水産業の推進



小網代の森

神奈川の「チカラ」との協働・連携

基本計画の2つの柱の取組を促進するため、神奈川の人材や先端技術を持った企業などとの協働・連携を推進します。

○人材の育成と協働・連携の推進

- ・環境学習・教育の推進と基盤づくり
- ・環境にやさしい活動の推進

○技術力の活用

- ・環境を向上させる技術と産業の活用



かながわ環境教室

環境基本計画の目標を実現するには、県民の皆様や企業の関係者の方々などのご理解とご協力が欠かせません。どうか何卒よろしくお願いします。

水質事故を防ぐための日常の取組みについて

神奈川県環境農政局環境部大気水質課

1 はじめに

神奈川県内では、河川や水路等に油や有害物質が流れ込む水質事故が毎年200件を超えて発生しています。一旦水質事故が発生すると、魚や水生生物に被害が出たり、水道原水や農業用水の取水ができなくなったりするなど、生態系や社会生活に大きな影響を与える可能性があります。今後も貴重な水環境を保全し、将来にわたって利用していくため、日頃から水質事故の未然防止に取り組む必要があります。

2 水質事故の通報件数の経年変化

水質事故の通報件数は平成12年度以降、毎年200件前後で推移してきましたが、平成18年度に300件を超え、平成19年度にはさらに増加し342件となりました。その後、減少に転じ、近年では年間250件程度で推移しています（図1）。

平成27年度の種類別通報件数は、魚死亡事故が15件（全体の6%）、油浮遊事故が116件（同46.4%）、その他の着色や汚濁等の事故が119件（同47.6%）となっています。その他の事故では特に塗料や工事に伴う濁水の流出による白濁事故が多くなっています。

平成27年度に通報件数が前年度に比べ若干減少した理由としては、夏場の魚死亡事故が減少したことがあげられます。昨年は8月下旬以降の気温が平年と比べて低く、一般的に気温が高いときに生じやすい酸欠による魚死亡事故が減少した可能性が考えられます。

長期的に見ると、通報件数が従前に比べ増加している背景としては、事業者の皆様の環境保全に対する努力や下水道の整備等により川がきれいになった一方で、環境に対する県民意識が高まり、河川等の異常に関心を払う県民が増えたことも考えられます。

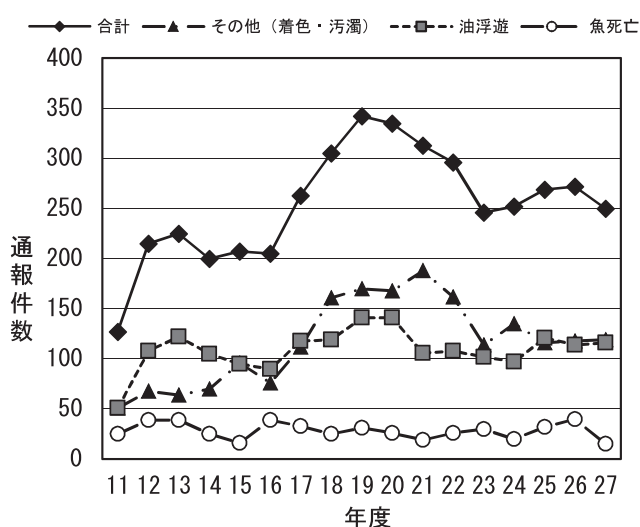


図1 水質事故の通報件数の経年変化

3 水質事故の原因とその事例

(1) 水質事故の原因別の割合

平成23年度から平成27年度までの5年間に発生した1,289件の事故のうち、原因が判明した事故は510件（魚死亡19件、油浮遊225件、その他266件）でした。

このうち、工場など事業所に起因する事故が219件（42.9%）と最も多く、工事（土木工事又は塗装作業等）に起因する事故が146件（28.6%）となっています（図2）。

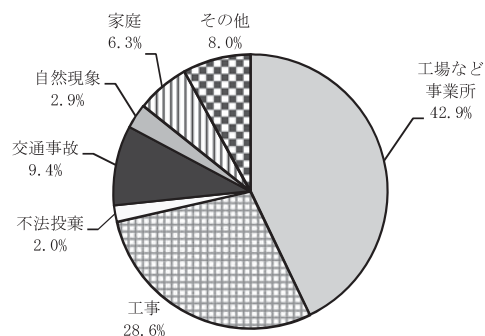


図2 水質事故の原因別の割合（5年間）

また、事故発生の通報を受けて現地調査に出向いたものの、原因を突き止めることができなかった原因不明の事故は779件（魚死亡118件、油浮遊325件、その他336件）でした。

(2) 水質事故の事例

平成27年度に発生した水質事故の事例から2つご紹介します。

ア 旅館からの重油流出事故

未明に停電が発生した際に、旅館に設置されたボイラーの燃料サービスタンクの送油ポンプの電子制御装置に不具合が生じました。その結果、送油が停止せず、サービスタンクの通気管を通じて燃料の重油があふれ出し、建物脇の水路を経由し河川へ流出しました（図3）。

原因者と関係機関（県、消防等）がオイルマットやオイルフェンスを設置し、重油の回収や清掃を行いました。原因者は再発防止のために、施設内の各機器の動作確認の実施や緊急時の操作マニュアルの見直し、さらに施設の定期点検の強化を行いました。

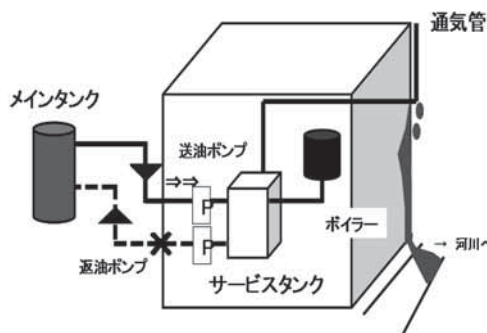


図3 燃料サービスタンク系統図

イ 工事現場における汚水の流出による魚死亡事故

市民から排水路でコイが死亡していると通報があり、原因を調査したところ、付近の学校の体育館改修及び耐震補強工事の際、施工業者がトイレ下の排水ピット内の溜まり水を汚水ではなく雨水浸透水と判断し、雨水枡に流してしまったことが原因であると判明しました。県は原因究明と再発防止対策を、市は不法投棄のおそれがあったことから今後の適正処理と再発防止を、それぞれ文書で施工業者に対して指示しました。原因者は死亡魚を回収するとともに、雨水枡に残っていた汚水をバキューム回収し、処分しました。

4 日常からの取り組みについて

県では、神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づき、事業者の自主的な取組を促進するため「**環境に係る組織体制の整備に関する指針**」を定めています。当該指針では、日常点検の徹底、通報・対応措置の整備等を規定しております。上記のような事故の未然防止や発生した際の被害の拡大防止等に役立ちますので、ぜひ参考にしてください。指針については、県のHP「神奈川県生活環境の保全等に関する条例について」に掲載しております。

引き続き日頃からの水質事故の未然防止に努めていただきますようお願いいたします。

※神奈川県において発生した水質事故事例や水質事故への対応リーフレットなど、県内の水質事故に関連する情報を県のHPに掲載しておりますので、ご覧ください。

【かながわの水質事故 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6997/>】

エネルギー自立型住宅・ビル・街の実現に向けて

神奈川県産業労働局産業部エネルギー課

東日本大震災を契機に、発電所で大量の電気をつくり、広域的な電力系統で送電する集中型電源から、エネルギーの地産地消を実現する分散型エネルギー体系への転換を図るため、県では、いち早く太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入加速化などに取り組んできました。その後、再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、電力系統の安定性を維持するため、発電した電力を送電せずに自家消費することが求められています。

そこで、神奈川県では電力系統に依存しないエネルギー自立型の住宅・ビル・街の実現に向けて取り組んでいます。

1 ZEH・ZEBの導入促進

高断熱の壁や窓など、高性能の省エネ機器による省エネと太陽光発電設備の活用などによる創エネにより、年間の一次エネルギー消費量が正味でゼロとなる住宅（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH））とビル（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB））を導入する取組に対して補助し、ZEH・ZEBの普及を図っています。

ZEH・ZEB導入費補助

○ZEH導入費補助

【対象者】

住宅の建築主（新築）、所有者（既築）又は
建売住宅取得者（建売）

【補助額（上限）】

400千円／戸（上限）（1／3）

○ZEB導入費補助

【対象者】

建物の建築主（新築）又は所有者（既築）

【補助額（上限）】

22,000千円／件（上限）（1／3）

（薄膜太陽電池を設置する費用は補助率1／2）



ZEHイメージ



ZEB実証棟（横浜市内）
出典：大成建設HP

ZEH導入費補助は、平成29年
2月28日まで募集しています。

[http://www.pref.kanagawa.jp/
cnt/f470193/p947976.html](http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f470193/p947976.html)

ZEB導入費補助は、募集終了

2 薄膜太陽電池普及拡大プロジェクト

ZEBを実現するためには、建物の窓面や、壁面なども、太陽光発電などの創エネに活用していく必要があります。また、従来の太陽光パネルは、耐荷重の低い工場の屋根等への設置が難しいという課題があったことから、平成26年度から、「薄膜太陽電池普及拡大プロジェクト」に取り組んでいます。薄膜太陽電池の薄くて軽い特性を活かし、工場や倉庫、体育館などの屋根をはじめ、建物の窓面・壁面やマンションのバルコニーの手摺など、平成27年度までに7つの用途を開発し37箇所を設置しました。

設置した薄膜太陽電池は、軽量型のもの、塩害にも強く曲面等にも設置が可能なものや、光の透過性がありながら遮熱効果があり、デザイン性にも優れたものなど、様々な特徴があります。今後は、多様な用途によりあらゆる場所に設置されていくことが期待されます。

<平成27年度に設置した事例>

麒麟ビール(株) 横浜工場 窓面



京浜急行電鉄(株)
金沢文庫現業事務所 壁面



A G C ロジスティックス(株)
京浜生麦センター 屋根



3 安定した分散型電源の導入拡大

高いエネルギー効率を有するガスコージェネレーション等を導入し、生産した電力と熱を複数の建築物間で共同利用する事業に対して補助し、導入拡大を図っています。平成28年度は、次の事業を公募採択しました。

○事業 者：東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

実施箇所：Tsunashimaサステイナブル・スマートタウン事業地内（横浜市港北区）

事業の概要：エネルギーセンター棟内に、高効率コージェネレーションシステム、ジェネリンク（温水投入型のガス吸収式冷温水器）を導入し、発電と同時に発生する廃熱を利用し、冷温水を発生させ、ターボ冷凍機や温水ボイラから発生する冷温水とあわせて冷暖房等に活用する。

4 水素エネルギーの活用

分散型電源の導入拡大、及び、次世代エネルギーとして期待される水素エネルギー社会の実現に向け、水素の利用拡大を図るため、燃料電池自動車（F C V）の購入や、インフラとして不可欠な水素ステーションの整備に対し補助し、普及を図っています。

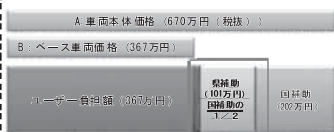
F C V ・ 水素ステーションに関する補助

○燃料電池自動車導入費補助

【対象者】
民間事業者、個人

【補助額】
国（経済産業省）補助金の1／2以内

燃料電池自動車導入費補助のイメージ

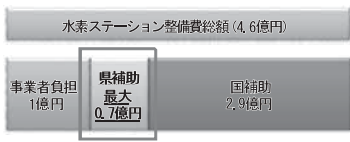


○水素ステーション整備費補助

【対象者】
民間事業者

【補助額】上限70,000千円／件

水素ステーション整備費補助のイメージ



トヨタ自動車(株)
MIRAI



本田技研工業(株)
CLARITY FUEL
CELL

F C V導入費補助は、平成29年2月28日まで募集しています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4259/p891634.html>

水素ステーション整備費補助は募集終了



木材資源のリサイクルとF I T制度

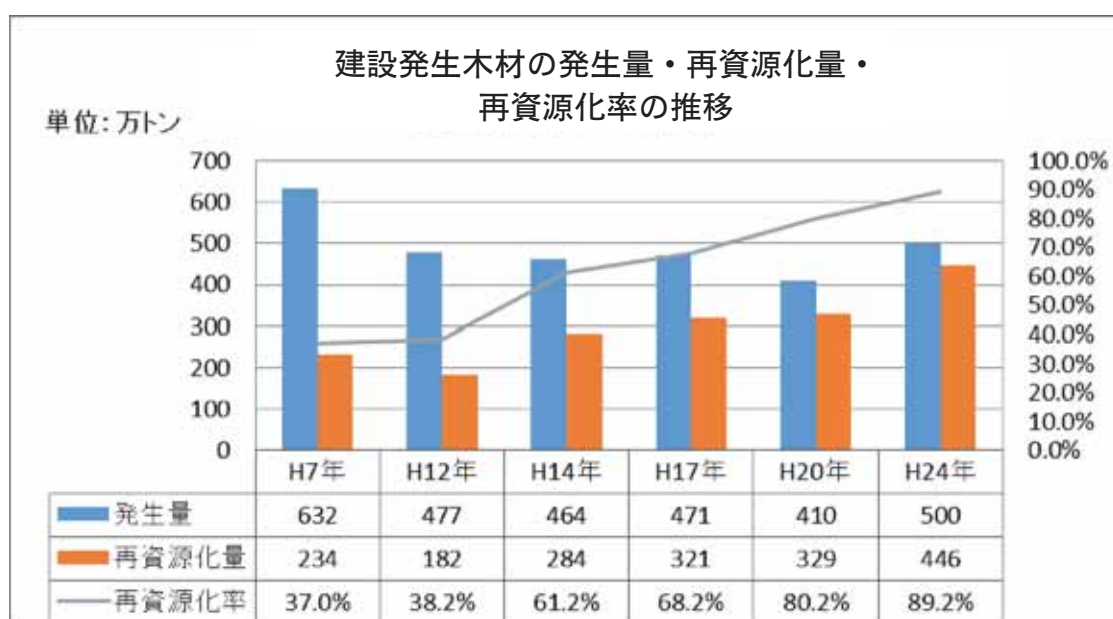
萬世リサイクルシステムズ株式会社

会長室 池田 桂太朗

我が国は国土の3分の2が森林という世界有数の森林大国であり、古くから自然の恵みである木材を貴重な資源として住宅などの建築物にも活用してきた歴史がございます。他方で、木材のリサイクルは、昭和46年に施行された「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下、廃棄物処理法）において「廃木材」（以下、木くず）が産業廃棄物に規定され、廃棄物としての適正処理・リサイクルが始まりました。その後、平成12年の建設リサイクル法制定により建設廃棄物の現場分別が徹底され、建設発生木材の再資源化率は、法制定時の38%から平成24年度には89.2%に上昇しました。（図－1 参照）

また、平成24年7月より固定価格買い取り制度（以下、F I T）がスタートしたことにより、木質バイオマス発電所の計画が爆発的に増加しております。

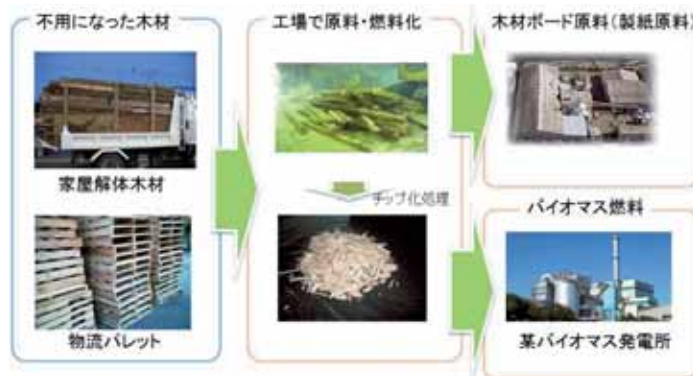
（図－1）国土交通省「平成24年度建設副産物実態調査結果から」作成



このような社会情勢の中、平成13年に横浜市が運営する焼却工場にて全量焼却処理されていた産業廃棄物由来の木くずをリサイクルする受け皿として萬世リサイクルシステムズは創業しました。

住宅の解体時に排出される木くずや、物流パレットを当社の工場で受け入れ、破碎・選別を行い、木質チップを製造しております。現在、約80,000 t／年の木くずを受け入れ、リサイクルを行い、木質チップを製紙会社、バイオマス発電所などに納品しております。

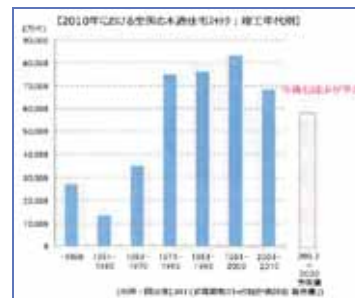
図－２（当社の木材のリサイクルの流れ）



さて、上述しましたFIT制度が開始したことにより、バイオマス発電所の計画が爆発的に増加しております。NPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会の試算によれば、これらのバイオマス発電所をすべて稼働させるのは、新たに200万tという膨大な量のバイオマス燃料が必要とされております。林野庁発表の「発電利用に供する木質バイオマスの証明のためのガイドライン」によれば、「既存利用に影響を及ぼさないような適切な配慮をすること」とされていますが、現状をみると影響が出ないとは言い切れない状況でございます。

現在、木くず由来の木質チップの総生産量は、360万t／年程度と推計されており、そのほとんどで利用先が決まっている状態です。他方で、木くず由来の木質チップの主原料となる木造住宅のストックは年々減少していく見込みであります。（図－３）このような状況下では、木質チップの価格の高騰や処理費の下落による木質チップの品質悪化を招き、チップユーザーのボイラーに多大なダメージを与えかねません。

このような市況において当社及び関係団体では、木質チップのメーカーとして、また廃棄物処理業者としての両方の立場を全うし、法令遵守だけでなく、厳格な品質基準を設けバージン材に劣らぬ木質チップを製造することにより、地球温暖化防止の一翼を担えるよう、より一層業務に邁進する所存です。



図－３ 木造住宅のストック推移

出典：国土交通省（2011年）「建築物ストック統計検討会」報告書



図－４ ボイラーマップ

出典：日経ビジネス「産廃NEXT」平成25年秋号

■問い合わせ先：

萬世リサイクルシステムズ株式会社 会長室 池田

みなとオフィス：神奈川県横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル10F

電話：045-228-8960

URL：<http://www.yokohama-re-style.com/>

漏油事故の対策研修会について考える

はじめに

昨年は高速道路においてタンクローリーの横転事故が発生、また日々の交通事故によるガソリンや軽油、化学物質の漏洩事故、近年では地震や豪雨などの自然災害による工場からの環境汚染も発生しています。

私たちは安全で安心な社会を確保していくためには、こうした災害・事故などによる環境汚染に対して十分な備えと、いざという時のための迅速かつ的確な対応が求められています。弊社はオイルマットやオイルフェンス、吸着材などを提供すると共にCSR（企業の社会的な責任）の一環として長年、お客様の『安全訓練』や『研修会』のお手伝いをさせて頂いております。

仕事柄、お客様の防災倉庫を見学する機会があります。ホコリをかぶったオイルマットやオイルフェンスを見かけると「随分と長い間、ここでは事故が発生していないのだな！」と安心する一方で、この資材を使ったノウハウや知識、経験などはちゃんと蓄積され継承されているのか不安にもなります。弊社の取組みが僅かなりとも災害や事故における地域の安全や環境汚染防止対策の進展に資すれば幸いと願っております。

1 安全訓練や研修会、勉強会の様子



東名高速道路―横浜インターチェンジにて
(写真：上)
中日本高速道路(株)横浜保全・サービスセンター様にて：東名高速道路・『安全訓練』の様子です、H27年10月に横浜IC内にてタンクローリーの横転事故が発生し大量のガソリンが流出しました。長時間の渋滞が発生する中でも現場では『安全の確保』が第一、2次災害の危険性を横浜消防局様に確認して頂きました。



関西地方―国土交通省の研修会にて
(写真：左)
近畿地方整備局―河川部『淀川・神崎川水質汚濁連絡協議会』主催の水質事故対応講習会の様子です。2時間―5日間―合計10回の講習会ですが近畿・北陸9県より約380名ものご担当者が参加されました。10月には実技研修も予定されています。この研修会は土木施工管理技士会連合会（JCM）認定のCPDS学習プログラムでもあります。



東京工業大学―大学院：
すすかけ台キャンパスにて
(写真：左)
化学実験を安全に行う上での事故防止策や対処法を講義しました。世紀の大発明も、やはり『安全が第一!!』と言うことです。



成田国際空港にて：
(写真：右上)
昨年の東京国際空港（羽田空港）に続き今年は第2回目の成田国際空港：NAAグループ：AMCO様にて勉強会を開催致しました。2020年の東京オリンピック/パラリンピック開催にともない海外のお客様も年々増加傾向、航空燃料などの漏油事故は絶対にあってはならない事故、『初動の対応』は有事の際の基本です。

2 研修内容について

漏油対策の『初動の対応』について、PPT（パワーポイント資料）や『路面・水面の油処理マニュアル』を用いて具体的な資材の使用法や工法を習得します。ガソリンなどの燃料、危険物の流出現場では『作業者の安全確保』が最も重要となるため、危険回避のための基礎知識や火災など2次災害について再確認します。

・PPT資料の内容について

- ① 『初動の対応』について、具体的な工法や油防除資材の使用法を習得。
- ② 現場では、やってはいけないことがある。…中和剤の危険性について（油は中和できません！）
国交省は油処理剤を河川で使用不可としています。各一級河川水質汚濁連絡協議会に通達済み。
- ③ 安全な作業をするために！（2次災害の危険性：一生懸命、現場対応すればするほど危険が伴う！）

・『路面・水面の油処理マニュアル』について

第一章：油について（食用天ぷら油からガソリンまで）

第二章：事故の対応を時系列に考え、時間の経過にともない対策する場所や資材、部隊が変わる。

～ その具体的な工法や資材について解説。

第四章：法令順守（コンプライアンス）：使用済み資材の処分方法について（産業廃棄物か一般廃棄物か）

第五章：付録・ロープの選定とロープワーク。オイルフェンスの限界流速などについて。

3 事業所や自治体の小規模訓練では、



パナソニック(株)アプライアンス社ランドリ・クリナー事業部様にて（滋賀県 写真：上）世界最軽量の掃除機はたったの2.0kgでした、感動しました。モノ作り世界No.1は環境への取組みもNo.1でした。U字側溝の対策や水路対策について研修中。



神奈川県・横須賀・三浦地域県政総合センターにて（写真：上）住宅街の用水路にて「土の工法」を実習、塩ビ管を利用しオーバーフロー対策。化学物質漏洩時の対策「中和法/希釈法」



油種の判定研修：利酒は得意でも？セルフのスタンドでガソリンや灯油は判別できると思いますが、軽油、A重油、マシンオイル（機械油）、作動油、トランス油、実際に見たことありますか？

4 実際の可搬式オイルフェンスの展張－回収訓練



オイルフェンスを斜め展張し漏油の回収作業を行う。斜め展張することにより、手前・右岸側に流出油は自然に集まる、集まった油をフェンスで囲み込みオイルマットを投入する、回収する。河川一面にオイルマットを投入する場面を見かけると、資材を無駄にしているように思えます。



訓練終了時は、皆さんで記念撮影!! 土木施工管理技士会連合会（JCM）認定のCPDS学習プログラム、自信たっぷりの『どや顔!!』です。

5 おわり

例えば高速道路の事故現場では時間の経過は通行止めの時間、『お客様のためにも一刻も早く道路開放を!』、しかし『安全は絶対に無視できない!』、『費用はかかるが環境も無視できない!』、難しい判断が問われます。

責任者は短時間で「環境」、「安全」、「コスト」を同時に考えながら一つの対策方法を選択されます。その選択は全ての関係者を満足できないかもしれない、なぜその選択なのか説明責任（アカウンタビリティ）を求められます。基本的な知識を習得し、情報の共有やノウハウの蓄積をすることにより有事の際の関係者の温度差をなくしグレーゾーン（白黒ではない判断の難しい場面）に対応することが出来ると思います。

【お問合せ先】 谷口商会(株)営業担当：小野雄二郎 086-296-5906 e-mail：ono@taniguti.co.jp

関東代理店 (株)MIO:エムアイオー:担当：緒方 大輔 0482-74-9382 e-mail：ogata@mio-kk.co.jp

会員事業所訪問②⑥ お元気ですか？



今回は厚木市の事業所です！

ネポン株式会社

協議会事務局 山崎 美紀



事業所全景

ネポン(株)は昭和23年に創業、我が国で初めての製氷と給湯を行う熱ポンプ設備を茨城県日立市にて完成させました。昭和43年厚木市上古沢に厚木工場(現厚木事業所)を開設し、当協議会には昭和53年の設立当初よりご入会いただいております。

当初社名は「熱ポンプ工業」でしたが、日本経済の急成長に伴う国際化や自社製品の多様化等により「熱」の「ネ」、ポンプの「ポン」を取って昭和44年に現在の「ネポン株式会社」に改称されております。

製造製品としては、農業部門では施設園芸用温風暖房機(ハウスカオンキ・誰でもヒーポン等)、地熱利用冷温風発生機などがあり、最近顧客が増えているハウス環境の「見える化」を可能にした農業クラウドサービス(アグリネット)などがあります。農業部門のみならず衛生部門、とりわけニッチマーケットとして泡で流す泡洗式簡易水洗トイレなどもあります。少量の水と泡でしっかり洗浄できるトイレ

主な製品



誰でもヒーポン

油焚き暖房機と電気式暖房機を組み合わせたハイブリッド暖房方式

施設園芸用温風暖房機
ハウスカオンキ



農業クラウドサービス アグリネット

レはかつては日本一標高の高い富士山測候所で、また日本一標高の低い青函トンネル海底駅に採用されたとのことです。

写真のハウスカオンキは最も主力の製品となっており、特にみかん、トマト、イチゴなどのハウス栽培に利用され国内シェアは7割だそうです。他にバイオマス燃料である木質ペレットを利用したペレットハウスカオンキや地熱を利用した製品などもある。農業という最も自然と直結する分野において施設園芸農家と地球温暖化への貢献を目指されています。

事業所の環境活動としては、製品塗装における塗料をトルエン・キシレン・エチルベンゼンを含まない塗料に全面変更するなど使用化学物質の削減を行っております。

また、廃棄物として製造工程から出る鉄くずは有価売却、梱包材やパレットとして持ち込まれる木材は燃料再利用、廃プラは委託処理されているとのこと。

省エネ活動としては事業所内の照明をほぼLED化し、主工場の屋根に硬質発泡ウレタン吹付け、断熱化によって冷暖房効率を向上させており、断熱、防水、補修、補強等スレート屋根の問題が一気に解決したとのことでした。

また、製品では油焚き暖房機と電気式暖房機を組み合わせたハイブリッド化を実現し、ユーザーの燃料コスト削減にも寄与されているそうです。

地域コミュニケーション活動としては、自治会と共同して周辺道路の清掃や整備を社員の有志を募って実施しているそうです。また、地元小学校の見学の受け入れや、厚木市の企業ということで「相模川をきれいにする会」のメンバーとして活動に参加されています。

訪問してまず目に飛び込んできたのは丹沢山系を目の前にした美しい緑地です。管理された芝生がとても鮮やかで印象的でした。そんな自然豊かな事業所ですので所内にシカやサルが侵入することも多々あるとのことでした。

創業者が緑地管理にとっても熱心であったとお聞きし、今尚手入れの行き届いた芝生のグラウンドを見てみると訪問者の私も心が和みました。

今後の農業環境は目まぐるしく変化しており、その中で是非、新しい視点で新たな製品を開発して欲しいと願う訪問となりました。

—掲載内容についてのお問合せ先—

ネポン(株) 管理本部 総務部
部長 塩野 隆一
電話 (046) 247-3112

協議会の活動状況

1 会員の状況 平成28年6月30日現在

区 分	正 会 員	賛助会員	計
前回までの計	288	21	309
新 入 会 員	1	0	1
退 会 会 員	3	0	3
計	286	21	307

○新入会員 (平成28年4月1日～平成28年6月30日) 1社

No	事業所名	業務内容	所在地	代表者名	電 話
1	(株)神戸製鋼所藤沢事業所	溶接材料、溶接ロボットシステムの製造、試験、研究等	藤沢市宮前100-1	工場長 長谷川 章	(0466)20-3111

○退会会員 3社 (H28.6月末現在)

2 平成27年度事業決算監査

日 時：平成28年4月15日(金) 15:00～17:00
 会 場：横浜市開港記念会館
 出席者：吉田 剛 監事、根本敏子 監事

3 平成28年度第1回通常理事会

日 時：平成28年5月27日(金) 13:00～13:30
 会 場：県民共済みらいホール
 出席者：23名
 内 容：(1) 平成27年事業報告について
 (2) 平成27年度収支決算報告について
 (3) 任期満了に伴う役員改選について
 (4) 第4回定時総会・記念講演等の進行について

4 第4回定時総会 (P2～3を参照)

日 時：平成28年5月27日(金) 14:00～16:45
 会 場：県民共済みらいホール
 出席者：88名 (総会後の記念講演112名)

5 平成28年度第1回臨時理事会

日 時：平成28年5月27日(金) 15:00～15:10
 会 場：県民共済みらいホール
 出席者：22名
 内 容：(1) 会長、副会長及び常務理事の選定

6 平成28年度ISO14001内部環境監査員養成研修会

日 時：平成28年6月14日(火)～15日(水)
 会 場：万国橋会議センター
 受講者：29名
 内 容：環境側面、規格要求事項の概要と内部監査のポイント、環境法規、内部監査の進め方、整合性監査、システム監査、チェックリストの作成、研修効果確認
 講 師：協議会 環境保全アドバイザー

7 女性担当者のための環境保全研修会 (平成28年度第1回)

日 時：平成28年6月17日(金) 13:00～16:30
 会 場：(株)旭商会
 受講者：25名



内 容：(1) はじめまして！
 —(株)旭商会の概要、環境の取組み及び施設見学について—
 (2) こんなときどうする？
 —リコーグループの廃棄物処理業者監査—
 (3) 環境法を知る！
 —最近の不適正事例にみる排出者責任とは—
 (4) 質疑応答

8 平成28年度第1回広報・ホームページ担当委員会

日 時：平成28年6月21日(火) 15:00～17:00
 会 場：横浜・波止場会館
 内 容：(1) 会報137号発行について
 (2) 今後の会報の発行計画について
 (3) ホームページ広報について

9 平成28年度公害防止管理者等フォローアップ研修会 (前期)

日 時：平成28年6月24日(金) 9:30～16:30
 会 場：万国橋会議センター
 出席者：81名
 内 容：(1) 平成27年度後期分 (10月～3月) 主な環境法令改正状況
 (2) 行政からの最近の法令動向等説明
 (3) 公害防止等の基礎知識の再確認
 「水質関係の処理技術及び測定技術」
 (4) 取組事例紹介
 「日産自動車(株)の環境改善への取組み」
 (5) 質疑応答



10 平成28年度神奈川県環境保全功労者 県政総合センター 所長表彰式

【横須賀三浦地域】

日 時：平成28年6月2日(木) 11:00～12:00
 会 場：県横須賀合同庁舎

【湘南地域】

日 時：平成28年6月14日(火) 14:00～15:30
 会 場：県平塚合同庁舎

【県西地域】

日 時：平成28年6月30日(木) 14:00～15:30
 会 場：県小田原合同庁舎

(受賞者の紹介についてはP5参照)



わがお国自慢

～神奈川県湯河原町編～



私の出身地は神奈川県足柄下郡湯河原町です。位置としては神奈川県の西の端で静岡県との県境になります。テレビのサスペンスドラマで時々出ているのが、箱根・熱海・湯河原温泉郷殺人事件など、特に船越栄一郎さんが出演されるドラマで使われています。ちなみに船越栄一郎さんは湯河原町出身で、中学校の先輩に当たります。また最近話題になっている舩添要一前東京都知事の別荘があることで有名です。

湯河原町の地形は、前は海に覆われ左右と後ろには箱根連山に囲まれ、非常に平坦な土地が少なく山坂が多いのが特徴です。また海には小さいながらも漁港と市場があり海産物には恵まれ、夏は砂浜で海水浴（わりと遠浅な地形です）、秋から冬にかけてはミカンの収穫を迎え、冬から春にかけては梅園で梅が咲き誇っています。気候は温泉が出るだけあってとても温暖な気候で冬は暖かく雪はあまり降りません。また夏は山が近いので風が良く吹き非常に涼しいです。特に私の自宅は山間にあるためか、ほぼ毎日のように風が吹いているためクーラー要らずで、自宅を建てて16年経ちますが未だにエアコンは自宅に付いていません。

ちなみに私の苗字は力石（ちからいし）と読みます。よく「リキイシ」と呼ばれますが、「リキイシ」は漫画にありました“あしたのジョー”の影響で、初対面の方にはほぼ毎回間違われます。この（ちからいし）の姓は湯河原町では割とポピュラーで、私が通っていた小学校では1学年3クラスありましたが、1クラス当たり2～3人くらい同じ苗字の人がいて、一昔前の電話帳（最近無くなりましたが）では2ページくらい並んでいました。最近では過疎化で力石の名字が減っていますが…。

湯河原町は海と山に囲まれ人口が約2万6千人で、非常に小さい町であるため大きな企業等はありません。箱根・熱海に次いで温泉の湯量が豊富で、最近では湯河原の温泉を町外に運び「湯河原温泉万葉の湯」として横浜MM21、東京町田、小田原、静岡県沼津などで日帰り温泉に利用されています。また夏は神奈川では湘南海岸に次いで吉浜海岸が有名で海水浴はもちろん、オフシーズンではサーフィンを楽しむ人で一杯になり、SMAPの木村さんもよく来ていたそうです。冬の梅園も熱海の梅園、小田原の曾我梅林に次いで有名で、最近出来た梅園ですが山間にあるため下から見ると山全体が梅に覆われているように見えるので非常にきれいです。

これを読んで湯河原町に興味を持たれた方、是非一度湯河原町に遊びに来てください。ただし車で東京方面から来られる方、休日の帰り道は渋滞を覚悟して下さい。伊豆半島へ遊びに行った方と帰り時間が合うと、小田原までは道が真鶴道路しかないため、ほぼ毎日曜日は10km以上渋滞していますので、あしからず。



みかん畑から町を望む

◆◆ 広報委員会 ◆◆

委員 長 (株)日立製作所ICT事業統括本部
副委員長 市光工業(株)伊勢原製造所
委員 (株)さんこうどう
委員 富士フイルム(株)神奈川工場
委員 三菱樹脂(株)平塚工場

委員 (株)岡村製作所追浜事業所
委員 ソニー(株)厚木テクノロジーセンター
委員 (株)ニコン相模原製作所
委員 JX金属(株)倉見工場
委員 三菱化学ハイテクニカ(株)小田原テクノセンター

✉ 事務局だより ✉

会員の皆様には日頃から“しんかんきょう”をご覧いただきありがとうございます。

表紙を飾る『アオバト』は全体が緑色の美しい羽色しています。子育て期間中の特に7月から8月にかけて、生息している丹沢山系から約30km離れた大磯町の照ヶ崎海岸に飛来します。餌の果実からの栄養分や水分を体内に吸収するために海水吸飲を行っているのではないかとされています。1996年県の天然記念物に指定され、大磯町の町の鳥となっています。

会報 しんかんきょう137号

発行年月日 平成28年8月
発行人兼 公益社団法人神奈川県環境保全協議会
編集責任者 会長 高橋 徹
横浜市中区日本大通1
(神奈川県環境農政局内)
電話 (045) 210-8727
E-mail: shinkankyoku@eagle.ocn.ne.jp
ホームページ: http://www.shinkankyoku.or.jp
編集協力 (株)さんこうどう (http://www.sankodo.net)
製作・印刷 電話 (0466) 27-2511

路面では大量に水面では強力に 油をつかまえる谷口商会の油吸着材

AC^{エーシー}ライト[®]

路面の油、水、その他の液体吸着材



交通事故等で路面に流出した 有害液体の拡散防止と回収に

(ガソリン、軽油、硫酸、塩酸、苛性ソーダ溶液、エンジンオイル、スラッジ含有汚水など)

- 埃がたたず作業が楽
- 路面凹部の油も吸着
- 油・酸・アルカリに対して安定
- PH値6～7で環境にやさしく、
- 散布しても車、自転車などのスリップは増えません。
- 消火能力があり二次災害を予防します。

スミレイ[®]

油だけ吸着する浮遊活性炭化物



スミレイオイルフェンス

- 小型軽量 少人数で設置できます。
- 海用フェンスと同じ防禦力
- 用途に合わせてカスタマイズ可能

スミレイオイルマット

- 水を吸わず、油だけを強力に吸い込みます。
- 長期間水に浮き続け、従来の吸着材より500～1000倍強力な吸着力。
- 活性炭だから経年劣化せず、環境にもやさしい。

油流出事故の初期対応に!!

オイルレスQ

路面・水面の緊急用漏油対策キット

- 交通事故による燃料・バッテリー液などの流出に!!
- 側溝・小河川の流出油の拡散防止・吸着に!!
- ISO14000の危機管理に!!
(パトロールカーに、工場の設備周辺に…)



ショルダー兼
バックパック型

手提げ型

【キット内容】

- ACライト4.5kg1袋
- スミレイオイルフェンス 7502 ...2本
- スミレイオイルマット 5050W ...3枚
- スミックスオイルハンター MP-50 ...5枚

お問い合わせは

谷口商会株式会社

谷口商会

〒701-0221岡山県岡山市南区藤田338-31

検索



TEL (086) 296-5906 FAX (086) 296-6507

<http://www.taniguti.co.jp/>
E-mail: info@taniguti.co.jp

I am... 萬世リサイクルシステムズ株式会社

住所 神奈川県横浜市金沢区鳥浜町 17-3

電話 045-769-2526

ISO14001 認定取得

横浜型地域貢献企業最上位認定

神奈川県建設発生木材等再資源化指定業者登録

木くずの再資源化事業者登録

横浜市産業廃棄物処分業許可

神奈川県廃棄物再生事業者登録

www.yokohama-re-style.com

産業廃棄物処理業

廃木材から燃料用・製紙原料用木質チップの製造・販売

廃プラスチックから固形燃料の製造販売

環境・CSRコンサルティング業務

国際協力業務・調査業務

JICA・NEDOなどから調査業務を受託しています

CSRコンサル業務

様々な企業とタイアップし、新しいリサイクルシステム構築

環境機器の販売業務

新しいタイプの太陽電池の販売業務

ポリカーボネートで圧着した薄膜太陽電池の販売

LED照明の販売

光触媒シートの販売

蛍光灯からLEDへの交換

蛍光灯のリサイクルまで一貫したサービスの提供